

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
いわき市	大野第三地区 (玉山、山田小湊、薬王寺、柳生)	令和3年3月	令和4年2月25日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	139.56ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	111.7ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	55.3ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	44.2ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	11.1ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	11.3ha
(備考)	

- 注1: ③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
- 注2: ④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
- 注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
- 注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

当該地区の農業従事者の平均年齢は70歳以上であり、半数以上が後継者がいないことから、将来的に担い手へ農地を集約することが想定される。

しかし、地区内(玉山、山田小湊、薬王寺、柳生)の水田が水路より高い位置にあり、水の管理が非常に難しく、地元の担い手も農地を引き受けにくいのが現状である。

以上より、ほ場整備事業等を実施し、耕作条件の改善等を行う必要がある。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・将来的に農地中間管理機構を通じた担い手への集積を行い、基盤整備事業の導入(機構関連農地整備事業)を検討する。
- ・地区の中心経営体として、個人農家以外に有力な農業法人等が複数存在するため、プランの中心経営体として位置づけを行い、農地の集積を行う。
- ・位置づけする中心経営体の他、今後、認定農業者や意欲のある農業者を中心経営体として誘導を行うことで、後継者の確保に努める。
- ・中心となる経営体に1名参入。令和3年9月に認定農業者となる。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。